



<連載⑨>

躍進の続く カリブ海クルーズ



大阪府立大学海洋システム工学科助教授

池田良穂

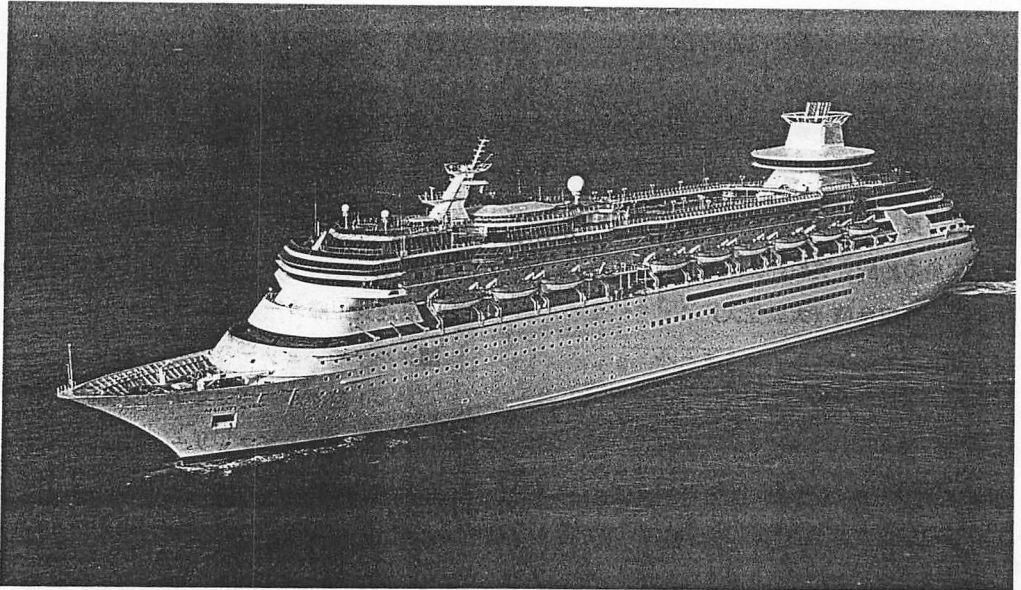
カリブ海のクルーズが相変わらず活況を呈している。昨年のクルーズ客数は440万人、クルーズ会社の総収入は約1兆7,000億円。西暦2,000年には、クルーズ客数800万人、3兆円規模のレジャー産業へ成長するというのが最近の予想である。カリブ海クルーズの最大手オペレーターであるカーニバル・クルーズ・ラインの最近の発表によると、同社の今年上半期の実績は系列クルーズ会社も含めて7億190万ドル、邦貨で約800億円。これは前年比で4%のアップ。収益は1億380万ドルから1億1,580万ドルと約11%増えている。イギリスの名門船会社P&Oも客船で稼ぐ会社に変身したことが、同社の昨年度の決算から伺える。すなわち、営業利益480億円の実に半分をクルーズ客船とカーフェリーが稼ぎ出した。この中でも、アメリカ市場でクルーズ客船を運航している子会社プリンセス・クルーズの貢献が最も大きいと言われている。定期客船の黄金時代は、各国政府の手厚い保護のもとに経営されてきた客船事業が、クルーズ客船の時代になって、ようやく自立する産業となったことをこれらの決算は如実に表わしていると言えよう。

一方、日本のクルーズはなかなか飛躍の切

っ掛けが掴めずに、各社必死の努力を続けて日本における市場開拓を行なっている。運輸省の統計などをみると、昨年度のクルーズ客は約20万人に達し、それなりにクルーズ客の増加がみえ各社の努力が現われつつある。しかし、北米のクルーズのように自立する産業にまでは至らず、多くの運航会社は親会社の手厚い保護のもとに懸命の努力を続けているという状況である。

日本のクルーズ会社の中には、バブルの最盛期にクルーズ客船を建造した会社も多く、比較的高級指向のクルーズを前面に押しだした営業を展開してきたが、これがバブル崩壊とともにやや業績に影響を与えているようだ。アメリカのクルーズが、1970年代から一貫して大衆のレジャーを指向して、不況にも強い産業としての基盤を確立していることを考えると、日本のクルーズ産業も大いに見習うべき点が多いように思う。

そういう事もあって、来年2月に再びカリブ海のクルーズの視察旅行を企画している。乗船するのは、カリブ海クルーズの最大手の1つであるロイヤル・カリビアン・クルーズ・ラインの7万総トン型メガ・クルーズ客船の最新鋭船マジスティ・オブ・ザ・シーズ。1992年にフランスで



マジスティ・オブ・ザ・シーズ

建造された新鋭船で、同社の7万総トン型クルーズ客船の3隻目。同社はさらに7万総トン型クルーズ客船を3隻発注しており、数年後には7万総トン型船6隻、4万総トン型3隻、2万総トン型3隻の、計12隻の大船隊を運航することになる。乗船するのは、マイアミ発の7日間西カリブ海クルーズで、メキシコ、グランド・ケイマン、ジャマイカなどに寄港する。如何に乗客を楽しませるか、しかも安い料金で、という現代クルーズの成功要因を実際に見ることは、単にクルーズ客船の運航という観点からだけでなく、カーフェリーや旅客船の運航などにも役にたつ情報がたくさん入手できるものと確信している。興味のある方は、JTB海外旅行関西支店（担当：山本・村田、Tel.06-271-4551, Fax.06-271-0547）までお問い合わせ下さい。

さて、前号でも御紹介した「第8回クルーズ客船・フェリー研究会」の内容がほぼかたまってきたので概略ご紹介しておきたい。

12月18日(土)

基調報告

- マーケット動向から見たフェリー／客船業界展望

館野美久（ブルーハイウェイライン）

- クルーズ客船界の現状と展望

山田迪生（日本海史事学会）

- 高速カーフェリー時代の幕開け

池田良穂（大阪府立大学工学部）

セッション1 高速旅客船

- 話題の高速旅客船紹介

- フェリー「太古」の船型について

埴 友雄（臼杵造船）

- 船舶・航空機・車両におけるキャビン空間。その特徴と共通性。

内田次彦（大丸装工事業部）

セッション2 内航客船界若手ホープによるパネルディスカッション

「内航客船界の夢を語る」

村木昭一郎（野母商船）

仁田一郎（瀬戸内海汽船）他

12月19日（日）

セッション3 旅客船の船酔い・乗り心地問題

■船酔いのメカニズム

東 司（小坂病院）

■旅客船の船酔い実船計測

池田良穂（大阪立大）

■高速旅客船のライドコントロール

オストル社（オーストラリア）

セッション4 クルーズ客船

■帆装クルーズ客船「クラブメッド2」のクルーズ

■カーフェリーによる正月クルーズ

伊藤午一（太平洋フェリー）

セッション5 長距離フェリー・クルーズフェリー

■各種フェリーの建造実績について

内田 徹（尾道造船）

■高速長距離カーフェリーの可能性

■クルーズフェリーの現状と将来性

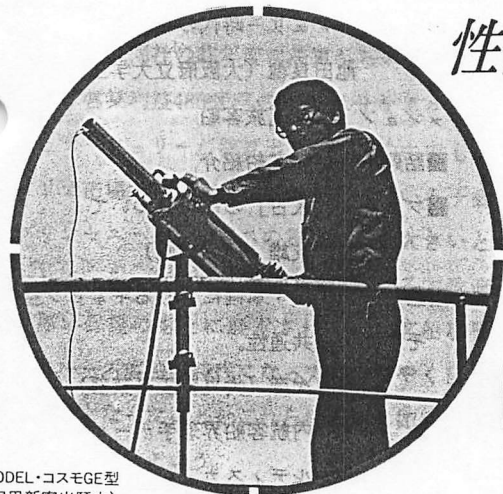
バルト海クルーズフェリーの現状と将来予測

日本のクルーズフェリー

参加希望の方は筆者まで（Tel/Fax.0722

-70-0612）お申込み下さい。

性能・実績で先端をゆく



MODEL・コスモGE型
（実用新案出願中）

もやい索発射器は

コスモ・GV, GE型

（バルブ式で操作は簡単）

共栄産業株式会社

〒650 神戸市中央区江戸町101番地 三共生興スカイビル
TEL 078(332)6288 FAX 078(321)1030